

帆柱ケーブル株式会社

帆柱ケーブル株式会社

I 法人の概要（平成 25 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市八幡東区大字尾倉 1481 番地の 1

2 設立年月日

昭和 32 年 3 月 1 日

3 代表者

代表取締役 内田 健一

4 基本財産

10,000 千円

5 北九州市の出資金

10,000 千円（出資の割合 100%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	7 人	0 人	1 人	6 人

II 平成 24 年度事業実績

当社は、皿倉山においてケーブルカー及びスロープカー施設を市から借り受けて運行している。あわせて皿倉山頂展望台の管理運営業務等を市から受託している。

平成 24 年度は、ホテルへの優待券配布、福祉施設団体・保育所等に対する無料送迎サービス、旅行社等への売り込み・連携、夏のビアガーデンを始め四季折々のイベントの実施及びマスコミ・雑誌等への積極的な PR 活動を行う中で、集客対策に努め、皿倉山の賑わいを創出した。

1 輸送人員

皿倉山スロープカー・皿倉山頂展望台の開業ブームが去った後の構造的減少の影響を脱し、夏のビアガーデン、ホテル優待及び無料送迎の実績が前年を大きく上回ったこと、また、営業時間の延長や工場夜景ツアー等により、帆柱ケーブルカーは前期比 1 万 1 千人、6.3%増の 189 千人、皿倉山スロープカーは前期比 7 千人、4.3%増の 157 千人となった。

2 営業損益

営業収益は、1 億 2,903 万円（前期比 1,204 万円増）となった。

営業費は、1 億 932 万円（前期比 457 万円増）となり、当期の営業損益は、1,971 万円（前期

比 61.1%、748 万円増) の黒字になった。

3 経常損益

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、2,108 万円（前期比 53.8%、737 万円増）と黒字幅が拡大した。

4 当期純損益

上記経常損益から特別損失及び法人税等を差し引いた当期純損益では、前期末に上下分離に伴う特別損失を計上していたこともあり、前期比 8,224 万円増で黒字転換し、1,917 万円の利益を確保した。

Ⅲ 平成 24 年度決算

1 貸借対照表

平成25年3月31日現在（単位：円）

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	59,140,536	流動負債	24,488,307
現金及び預金	42,261,992	買掛金	38,055
未収運賃	68,900	次期返済予定の長期借入金	6,324,493
未収入金	9,838,415	次期返済予定のリース債務	1,492,415
商 品	791,628	未払金	12,621,372
貯 蔵 品	6,150,793	預 り 金	116,396
立 替 金	28,808	仮 受 金	43,576
		未払法人税等	1,059,000
		未払消費税等	1,952,000
		賞与引当金	841,000
固定資産	21,609,504	固定負債	82,290,686
鋼索鉄道事業固定資産	3,922,025	長期借入金	81,800,008
その他事業固定資産	2,624,899	リース債務	77,278
投資その他の資産	15,062,580	退職給付引当金	413,400
出 資 金	10,000	負債合計	106,778,993
長期前払費用	52,580	(純資産の部)	
長期預金	15,000,000	株主資本	▲ 26,028,953
		資 本 金	10,000,000
		利 益 剰 余 金	▲ 36,028,953
		(その他利益剰余金)	▲ 36,028,953
		繰越利益剰余金	▲ 36,028,953
		(うち当期純利益)	19,165,661
		純 資 産 合 計	▲ 26,028,953
資 産 合 計	80,750,040	負債・純資産合計	80,750,040

2 損益計算書

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日 (単位：円)

科 目	金 額	
鋼 索 鉄 道 事 業		
営 業 収 益	86,661,773	
営 業 費	89,464,269	
営 業 損 失		2,802,496
そ の 他 事 業		
営 業 収 益	42,372,271	
営 業 費	19,860,053	
営 業 利 益		22,512,218
全 事 業 営 業 利 益		19,709,722
営 業 外 収 益		1,793,916
受 取 利 息 及 び 配 当 金	17,149	
雑 収 入	1,776,767	
営 業 外 費 用		428,470
支 払 利 息	382,740	
雑 支 出	45,730	
経 常 利 益		21,075,168
特 別 損 失		7
固 定 資 産 除 却 損	7	
税 引 前 当 期 純 利 益		21,075,161
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		1,909,500
当 期 純 利 益		19,165,661

IV 平成25年度事業計画

当社は平成 22 年度より「経営改善計画」に基づき、配置人員・組織・保守管理委託等の見直しや減資によるコスト縮減、営業強化による収益の向上などに取り組み、平成 22 年度は純損益が黒字に転じ、平成 23 年度は営業損益及び経常損益ともに黒字に転じ、当初予測していた平成 23 年度の資金ショートという最悪の事態は回避することができた。

また、平成 23 年度は減資の実施により 16 億円を超える累積損失を一掃したが、新たに上下分離を前提とした鋼索鉄道事業の資産に対する減損処理を実施したことにより、債務超過となっている。

債務超過については、前期の 4,519 万円から当期は 2,603 万円と大幅に縮小し、今後も営業損益及び経常損益ともに当期と同じ程度の黒字基調となることが予測され、今後 2 年程度で解消される見込みである。

また、返済猶予を受けていた北九州市からの借入金については、当期から返済を再開している。

平成 25 年度は、利用客 20 万人を目指してさらに経営改革を推し進め、経営の改善・安定化、利用者サービスの向上、皿倉山の観光振興に努めていき、帆柱ケーブルカー及び皿倉山スロープカーの運行にあたっては、安全を第一に、良質な運行サービスを提供することとする。そのために、以下の項目について重点的に取り組む。

1 「経営改善計画」の推進と組織風土の改善

経営改善計画に基づき、効率的・適正な運行・業務執行体制を確立するとともに、マーケティング戦略に基づき利用客 20 万人を目標に中長期的視点に立った経営を推進する。

また、「管理」から「お客様本位」「経営」への意識改革を図るため、OJTや幹部会議、運転会議、お客様ご意見箱、従業員提案制度及び勤務評定制度等による自律的改善と風通しの良い職場づくりを推進する。

2 安全運行遵守

「25 年度無事故達成」をスローガンに、①安全意識醸成、日常的な現場巡視による実情の把握と業務マニュアルの実践・遵守の徹底、②車両、運転施設の徹底的な点検、整備の実践、③同種事業や関連会社との情報交換会などの研修を通じたスキルアップを図る。

3 コスト縮減

橋梁手すり（延長 560m）の塗り替えを外注に頼らず全従業員で取り組み、コスト縮減と同時に組織の求心力を高める。

また、前年度に引き続き、繁忙期・閑散期を通じて運行体制の効率的かつ適正な見直しを行い、雇用・配置人員の削減、保守管理等委託契約の見直しやイベントの効率的執行と費用対効果の改善など、徹底的なコスト縮減に努める。

4 増客、増収対策

利用客 20 万人を目標に、以下の事業に取り組む。

(1) イベント等企画事業

皿倉山の知名度の向上と環境学習・レジャースポットとしての定着を目指し、皿倉山の特性・優位性（夏は涼しい、景色、夜景、四季の変化）を活かすとともに、イベントを体系的・連続して実施することにより、認知度の向上と費用対効果の改善を図る。

昨年マスコミにも大きく取り上げられ好評だった「星空ビアガーデン」や「森のがっこう」「観望会」「サタデーナイト連続ライブ」「アマチュアバンド大集合」「仲秋の名月鑑賞会」「クリスマスライブ」「バレンタイン大作戦」等好評のイベントを前年度に引き続き実施するほか、新たに皿倉賑わいづくり推進協議会と連携して新企画のイベントを実施する。

また、イベントの実施にあたっては、市・区役所及び帆柱自然公園愛護会、地域団体等との連携をより深めていく。

(2) 集客・広報の取り組み

利用者が拡大している無料送迎サービスやホテル優待を継続するとともに、ホテルとの連携により宿泊パック商品の普及を促進する。また、県内小学校を対象に遠足・社会見学先として誘致する。さらに福岡市へのPRの強化や実績の上がりつつある韓国・台湾等外国人客の取り込みのために現地旅行社やフェリー会社との連携を更に強化する。

キー局TVのCM、CATVの番組CM提供、JR小倉駅やリバーウォークのビジョンへの広告掲示を拡大するとともに、ダイレクトメール、新聞、テレビ、情報誌、市広報紙のほか、ラジオ、インターネット等各種メディアへのイベント・営業情報等タイムリーで積極的なPRを行う。また、県内及び九州・山口各県のJR主要駅へのポスター掲示や街頭宣伝を実施する。

(3) 営業時間の延長

夜景人気やレジャー活動の深夜化等に対応し、引き続き夏休み期間、4～10月の土・日・祝日に加え、新たに11月～3月の土・日・祝日についても営業時間を延長し、利用客の増加を図る。

5 乗客サービス向上

お客様ご意見箱の設置をはじめ、イベントの際のアンケートなどにより、顧客ニーズを的確に把握しサービスに反映するとともに、従業員全員による「笑顔で心からのおもてなし実践」を、日常業務や接客研修の中で指導徹底していく。

V 平成 25 年度予算

1 予定損益計算書

自 平成25年4月 1 日

至 平成26年3月31日 (単位：千円)

科 目	金 額
鋼 索 鉄 道 事 業	
営 業 収 益	93,056
営 業 費 用	91,891
営 業 利 益 (▲ 損 失)	1,165
そ の 他 事 業	
営 業 収 益	42,095
営 業 費 用	21,456
営 業 利 益 (▲ 損 失)	20,639
全 事 業 営 業 利 益 (▲ 損 失)	21,804
営 業 外 収 益	1,884
営 業 外 費 用	417
経 常 利 益 (▲ 損 失)	23,271
特 別 利 益	0
特 別 損 失	0
税 引 前 当 期 純 利 益 (▲ 損 失)	23,271
法人税、住民税及び事業税	1,059
税 引 後 当 期 純 利 益 (▲ 損 失)	22,212

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 25 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	内田 健一	
専務取締役	欠員	
取締役	井上 勲	北九州市総務企画局長
〃	伊藤 正志	北九州市財政局長
〃	垣迫 裕俊	北九州市保健福祉局長
〃	西田 幸生	北九州市産業経済局長
〃	今永 博	北九州市建設局長
〃	隈 乃理子	北九州市八幡東区長
〃	秦 勝則	北九州市八幡西区長
〃	柏木 修	北九州市教育長
監査役	奥 鶴雄	公認会計士
〃	鮎川 典明	北九州市産業経済局観光部長

2 市との特命随意契約の状況（平成24年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の 場合その理由
皿倉地区観光振興事業	13,010	本業務は、皿倉地区の来訪者の状況を常に把握した上でニーズに合わせたイベントの開催や情報発信等の業務を実施することが必要不可欠である。帆柱ケーブル(株)は皿倉地区の観光振興を目的に設立され、来訪者のほとんどが利用しているケーブルカー・スロープカーを運行している。同社は皿倉地区のあらゆる情報を熟知し、ケーブルカーの運行等との連携や料金面での一体的な企画立案を効率・効果的に行うことができる唯一の業者である。	再委託なし				
皿倉山頂展望台管理運営業務	13,816	皿倉山頂展望台は、山頂への唯一のアクセス手段であるスロープカーの乗降場と一体的な施設である。ケーブルカーやスロープカーを運行する同社は、これらの運行と同展望台（ロビー、展望デッキ、レストラン等）を一体的に運営することで利用者サービスの向上を図ることができる唯一の業者である。	館内清掃	1,144	株式会社スピナ	随意契約（特命）	山上という厳しい自然環境の中、来客数・イベント等により臨機応変に対応する能力を有しているため。
			浄化槽保守	473	株式会社椛組	随意契約（特命）	山上という寒冷差が大きい環境で、夜間を含め臨機応変に緊急対応できる能力を有するため。
			昇降機設備保守	1,336	ダイコー株式会社	随意契約（特命）	対象設備の技術情報を保有する同社しか、速やかな故障等への対応ができないため。
			自家用電気工作物保守	315	中原電気管理事務所	随意契約（特命）	他の電気動力設備の保守管理と一体的に実施することで、円滑な業務の実施が可能であるため。
			消防設備保守	37	株式会社東和防災システム	少額随意契約（5万以下）	
帆柱ケーブルオーバーホール等業務	8,033	ケーブルカーを運行している同社以外に履行できる業者がない。また、同社以外に委託した場合、事故等発生時の責任区分が不明確になる。	オーバーホール等業務のうち、作業に専門的な設備・施設が必要な部分	7,315	日本ケーブル株式会社	随意契約（特命）	同社が製作・納品したケーブルカー施設で、業務実施にあたっては特殊な専門知識や技術を必要とし、また、作業を実施するための専門的な設備・施設も備えている唯一の業者であるため。
帆柱自然公園及び皿倉登山道維持管理業務	2,205	公園内で四季を通じ自然体験行事等を長年にわたり開催しており、帆柱山系の地形、自然環境、気象状況等に精通し、専門知識を有するため、当委託業務を唯一履行できる業者であるため。	帆柱自然公園内の巡視・通報、公園利用者への指導等	500	特定非営利活動法人帆柱自然公園愛護会	随意契約（特命）	帆柱自然公園内において、日常的に自然公園や動植物の保全・保護活動を行っていることから、その時々々の現地の状況を熟知し、当社と連携した的確な巡視、通報、指導が可能であるため。
合計	37,064		合計	11,120			